石神井南中学校
学校だより

平成３０年度　第 ８ 号
発行日　２月２７日(水)
練馬区立石神井南中学校
校長　　田　邊　克　宣

「 最後の一歩を抜かりなく 」

校長　田邊　克宣

三寒四温の季節の中で、木々の梢には新しい芽が吹き始め、冷たい空気の中にも確かに春の訪れを感じるようになりました。

３年生は、ここ数ヶ月、緊張の中で毎日を過ごし、その不安の日々を乗り越え、いよいよ進路決定という人生の大きな節目を迎えます。

この間、すでに早くに進学先を決定した生徒たちが、三々五々、校長室に報告に来てくれました。うれしかったのは、合格の報告をするその笑顔と、そして、まだ決まっていない仲間への思いやりの心を知れたことです。

「 皆が決まるまで、浮かれず、しっかりと学校生活を送る。」と、先に報告に来た誰もが答えてくれました。３年生がチームとして受験に臨んでいる姿に、心から、いい仲間だなと、うらやましく思いました。

２年生は、中堅学年最後の大きな行事として、スキー移動教室の準備に余念のないところです。なにしろ移動教室から帰ってきて２週間もすれば、もう自分たちが一番上の学年となるのですから、そのための布石としても、ぜひとも成功させましょう。

１年生は、４月から先輩となります。つい数日前まで小学生だった後輩を迎え、中学生とはこういうものだと教える立場になります。中堅学年となるにふさわしい自分となっているか、今一度、自分自身の心構えと日々の行動を振り返ってみて下さい。

平成３０年度も残りわずか、後、数週間を残すのみとなった今、気の緩みはありませんか。「 蟻の穴から堤も崩れる 」と言います。ちょっとした油断が、取り返しのつかない大事にまで至ってしまうことも、ままあることです。この一年でこつこつと積み上げてきたものをそっくりそのまま次年度に繰り越すために、挨拶や時間、授業の受け方や家庭学習など、もう一度気を引き締めて、年度末のこの時期に、きっちりと締めくくりをしましょう。

３年生は、もうあと本当に数日で、義務教育の９年間を終えるところまで来ました。今までに学んだことと、たくさんの思い出を胸に、石南中のよき伝統を後輩に託し、立派に卒業していってくれるであろう事を確信しています。

そして残る１．２年生が、引き継いだものをさらに進化させ、また新たな石南中の伝統を創っていってくれることを、期待しています。

平成３０年度最後の日々を、４月からのそれぞれの生活につなげるように、各学年の一人一人が、意識を高くもって、大切に過ごしてください。

服のチカラプロジェクトへの感謝状

服のチカラプロジェクト参加校のみなさんへ

この度は“届けよう、服のチカラ”プロジェクトへのご参加と、衣料回収にご協力をいただきましてありがとうございました。

２０１８年度は４７都道府県より合計３８８校にご参加いただき、約６３万着の子ども服を回収することができました。集まった子ども服は、世界中の服を必要としている難民のもとへ順次お届けしています。

２０１８年には南米に位置するコロンビア共和国で、ベネズエラ共和国からの難民と移民に向けて９万点の服の寄贈を行いました。ベネズエラでは、不安定な経済・社会情勢や人権侵害、治安悪化が続いており、多くの人がコロンビアやエクアドル、ペルー、ブラジルなどへ移動しています。ベネズエラ国内では、子どもたちの薬やワクチンが十分に手に入らない状況のため、多くの母親が安全に出産できないことや子どもたちに十分な栄養や薬を与えられなくなったことをきっかけに母国を離れているという状況でした。

今回寄贈を行ったいずれの場所でも、服は大いに喜ばれ、服が持つ「けがや病気から命を守るチカラ」をお届けすることができました。私たちのもとで役目を終えた服にも、まだまだ大きなチカラがあり、衣料回収にご協力いただいた方々の想いとともに、現地に届けられています。

今回みなさまが学校内や地域の方々に呼びかけてくださったことにより、難民問題に関心をもってくださった方もきっと多いことと思います。問題を知る人が一人でも増えることが、問題解決への第一歩につながっていきます。こうした一人ひとりの行動によって、本当に世界を良い方向に変えていけると私たちは信じています。

感謝状を受け取る生徒会役員

ＵＮＨＣＲ（国連難民高等弁務官事務所）　　株式会社　ファーストリテイリング

石南中生の活躍

練馬区小中学校連合書きぞめ展出品者（訂正版）

１年生	遠藤　碧	内田　陽美	嶋田　莉子	橋本　佳音
２年生	吉田　彩葉	園田　美月	森田　楓子	吉田　弥央
３年生	桶川　彩夏	中西　菜月	坂田　萌々	坂田　奈々

卓球部

２年　池谷　柊吾　　練馬区学年別大会　個人戦　第２位